MMIX＋「東北東京展」映像作品

以下の作品はじっくりご自宅でもお楽しみいただけます

震災紙芝居

MMIX と 10 年

コトのアート研究所

桜 3.11 学校プロジェクト

TATSUKO88「俺の人生」

アート・インクルージョン 10 周年記念ドキュメンタリー「パートナーズ」

会場アクセスマップ

2020/2021 東京ビエンナーレ TOKYO BIENNALE

東京ビエンナーレ

見なれぬ景色へ ―純粋×切実×逸脱―

2021 年 7 月 10 日（土）～ 9 月 5 日（日）

東京ビエンナーレとは、“東京” のまちを舞台に “２年に１度” 開催する国際芸術祭。世界中から幅広いジャンルの作家やクリエイターが東京のまちに集結し、まちに深く入り込み、地域住民の方々と一緒に作り上げていく新しいタイプの芸術祭です。
MMIX Lab も公募アートプロジェクト「ソーシャルダイブ」に「カセトラプロジェクト」で参加しています。

「たすけあいの輪をむすぶ」
こくみん共済 coop は、次のステージへ

こくみん共済 NEWS

公式キャラクター ピットくん

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済〈全労済〉
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

MMIX＋「東北東京展」

2021 年 8 月 13 日（金）～ 22 日（日）
11：00 ～ 19：00（最終日 17：00）

スペース・ゼロ　B1 ギャラリー・展示室

東京都渋谷区代々木 2-12-10 こくみん共済 coop 会館

入場無料・会期中無休

『マスクの着用、検温、ディスタンスの確保、入室の人数制限にご協力ください』

drawing by かっつん

▪主催：文化庁／一般社団法人ＭＭＩＸＬａｂ（媒体融合Ｌａｂ）
▪共同主催：スペース・ゼロ
▪協力：一般社団法人アート・インクルージョン
▪問合せ：MMIX Lab（info@mmix.org）

MMIX＋「東北東京展」

様々なメディア（媒体）を融合させ、アートと地域文化を結び創造的な芸術活動を展開している
MMIX Lab（ミミックスラボ）が東北や東京で活動をしている表現者（アーティスト）をプロデュースします。
インクルーシブな表現の場を創る！コロナ禍でも表現活動を止めない！プロジェクトでもあります。
また MMIX では東京ビエンナーレ 2020/2021 との同時開催となります。（MMIX Lab 村上タカシ）

文化庁委託事業「令和３年度障害者等による文化芸術活動推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む）」

かっつん

青をこよなく愛するかっつんは、アート・インクルージョンに入った当初、ひたすら何かを青く塗り続け、青ペンだけが無くなるという事態を巻き起こした。そして青への愛はいまもかわらずつづいている。鍵盤を使った即興演奏も得意で、「Katzen Studio」名義で各配信ストアからアルバムをリリースしている。

Saiko

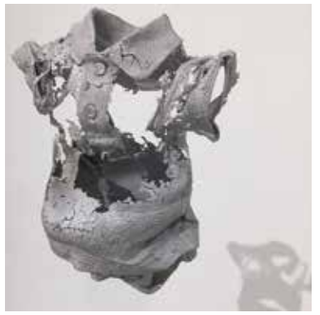
アートインクルージョンに通い始めたころは主にディズニーキャラクターを繰り返し描いていたSaiko。半年くらい過ぎたころから突然湧き出すように自身の内にあった世界を描き始めた。温泉へ行く途中で見かけたかかし。お坊さんになったいとこ。天気。はたらくくるま。その創作意欲は尽きることを知らない。

清水敬太

作品がさまざまなグッズに使われているベテラン。そんな清水さんがアート・インクルージョンにやって来てから描き始め、今も作り続けている未完の大作が最終的には54枚になる紙芝居だ。ページ順に描くのではなく、最後のページや途中のページから描いているが、「頭の中に全部のページが入っているから大丈夫」。だという。

大野将章

1990年愛知県生まれ。2015年東京芸術大学大学院修了。小さい頃から工作が好きでその延長で今もものを作っている。最近は「道具」をテーマに、自分のイメージを形に落とし込んだ立体物の制作をしている。



空閑 渉

1991年東京都生まれ。2016年多摩美術大学大学院修了。自作の編み物や既製品の衣服を蝋型鋳造によってアルミニウムに置き換えた作品を制作している。それは見過ごした日常の刹那を物質化することで記憶装置としての役割を示している。

西村 卓

「個と集団」「都市と家」をテーマに作品を制作している。木材をベースに様々な素材を用い、立体作品のほかインスタレーションや平面作品、ワークショップなどジャンルを横断した発表活動を行っている。主な展覧会：個展「拡張都市」（銀座蔦屋書店／2018年）／「Tacking City Nihonbashi」（東京日本橋周辺の廃ビル／2019年）／個展「こんにちは、世界。」（ノリタケの森ギャラリー／2020年）など

パルコキノシタ

1965年、徳島県生まれ。漫画家、現代美術家。小中高の教師を経てイラストレーターに転向、月刊漫画ガロで漫画家デビュー。ベネチアビエンナーレ、ドクメンタでの国際展にてゲリラパフォーマンスを行うなど、軽いフットワークと柔らか頭で世界を突進中。2004年、仙台市の商店街で行われた「観光とアート展」以来、宮城県での企画は仙台四郎に扮して実施。2017年、石巻市での現代アート展「リボーンアートフェスティバル」参加作家。

門脇篤

2003年、仙台の商店街で行われたアートプロジェクト「TANABATA.org」に参加したことがきっかけで、さまざまなメディアを使い、「自分ではない誰かと何かを行う」コミュニティアートを各地で展開するようになる。東日本大震災後は、仮設住宅・復興住宅での「おしるこカフェ」やアートを仕事にする福祉サービス事業所「アート・インクルージョン・ファクトリー」、スマトラ沖地震の被災地インドネシア・アチェと東北を結ぶ「アチェ＝ジャパン・コミュニティアート・プロジェクト」などの企画・運営を行っている。

村上タカシ

美術家、MMIX Lab代表
東日本大震災からの持続可能な社会観光拠点として石巻にコトのアート研究所を開設。
木造仮設住宅を利用した＜カセトラプロジェクト＞を企画し東京ビエンナーレ2020/2021に参加。

堀田 千尋

1990年北海道出身。多摩美術大学大学院修了。物そのものに伏在している「こと」を取り出すことで、内と外、境界について考える。「BankART Artist in Residence 2015」、「多摩美術大学助手展」等に参加。

佐俣和木

2017年多摩美術大学卒業。2021年~京都市立芸術大学修士在学中。既製品を扱うコンセプチュアルアートの他、映像やインスタレーション表現で日常に潜む違和感をユーモラスに置き換えていくような活動をしている。

開発好明

1966年山梨県生まれ。1993年多摩美術大学大学院修了。観客参加型の美術作品を中心に、2002年にPS1 MOMA「Dia del Mar/By the Sea」、2004年にヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館、2006年に越後妻有大地の芸術祭2006に出品。2019年あそびのじかん展（東京都現代美術館）、パークビエンナーレ（アゼルバイジャン）などに参加。毎年３月９日に開催される「サンキューアートの日」の企画者としても知られる。